

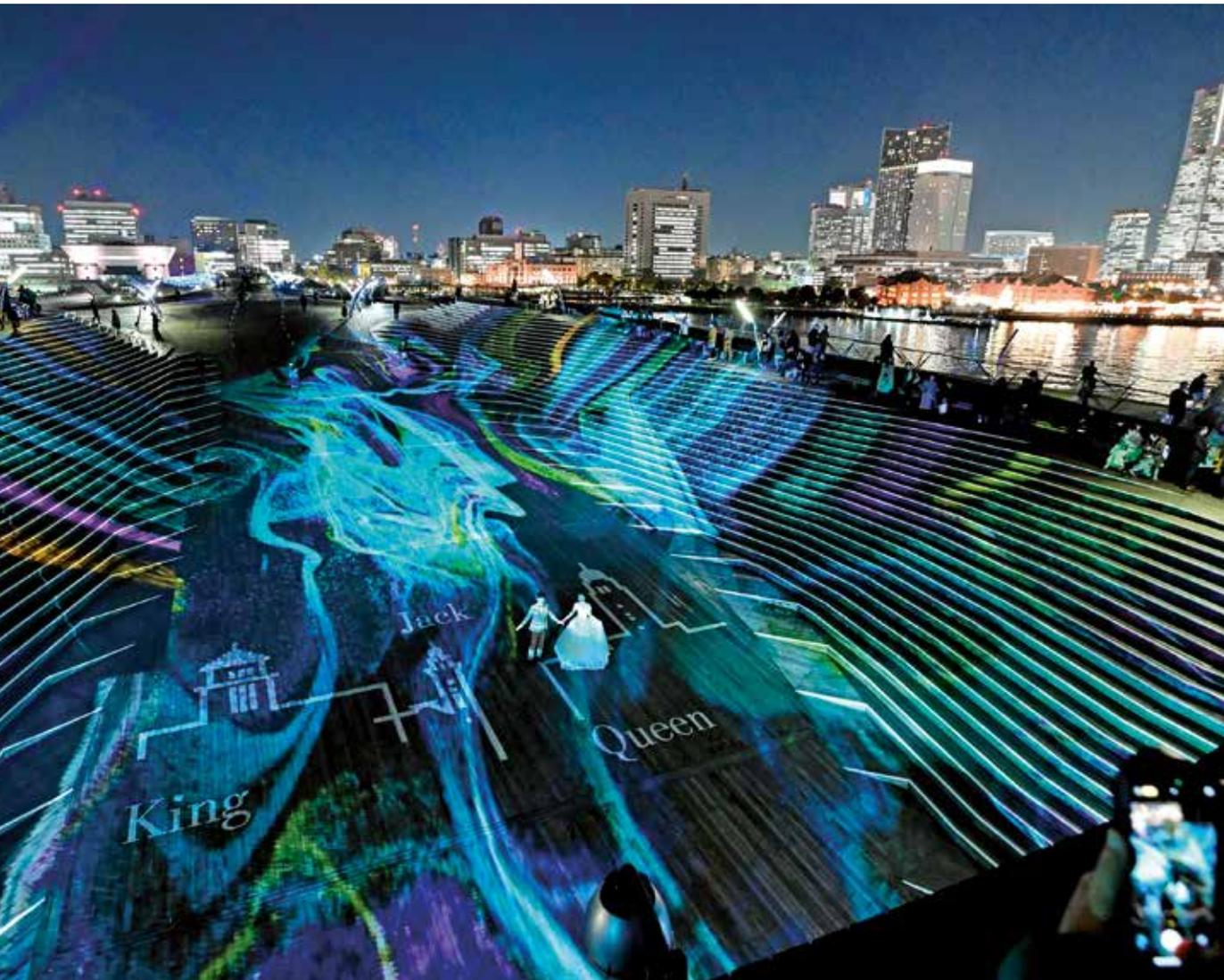
2023 12/12

No.2200

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



横浜都心臨海部を彩るイルミネーション「ヨルノヨ」が来年1月4日まで開かれている。大さん橋（横浜市中区）では、大規模なプロジェクションマッピングで来場者を魅了。クリエイティブ・ライト・ヨコハマ実行委員会主催で入場無料。



視点点描	3
百回記念迎える「箱根」	
特集	4
迷走する総合経済対策 持続的な実質賃金増加を	
特集	8
《ライドシェア》幸せの量産をもたらす 魔法の杖か その課題と提言	
政治双眼鏡	12
首相への逆風が変わった選挙風 後ろ倒しになるほど野党には追い風	
水谷竹秀×リアルワールド	13
パレスチナの少女が訴える不公平	
かながわTODAY	14
11月の主な経済ニュース	

事務局だより

◇2024年1月定例講演会

1月17日(水) 午後2時30分～4時

神奈川新聞社大会議室 (横浜市中区太田町)

講師：女流落語家

蝶花楼 桃花 氏

◇2024年2月定例講演会

2月5日(月) 午後1時30分～3時

メルヴェーユ(桜木町駅近く)

講師：浄土寺(三浦按針菩提寺)

住職 逸見 道郎 氏

◇2024年2月特別講演会

2月14日(水) 午後1時30分～3時

ロイヤルホールヨコハマ (横浜市中区)

講師：世界最高齢のプログラマー 若宮 正子 氏

◇2024年3月定例講演会

3月4日(月) 午後1時30分～3時

ベイシエラトン ホテル&タワーズ (横浜駅西口)

講師：ウエイズトヨタ神奈川社長 宮原 漢二 氏

◇2024年4月定例講演会

4月17日(水) 午後1時30分～3時

ホテル、ニューグランド (山下町)

講師：ファンケル名誉相談役
ファウンダー

池森 賢二 氏

視点 点描



百回記念迎える「箱根」

お正月の風物詩、箱根駅伝（東京箱根間往復大学駅伝競走）が新春に100回大会を迎える。

数々の名勝負を重ねてきた大会は、コースのほとんどが神奈川県内を通過する。神奈川県新聞では箱根の歴史を振り返る連載を初秋から続けてきたが、例えば古い沿道写真一つから当時のレース展開のみならずさまざまなことが思い出

されるのは、地元開催ならではのことだろう。節目の大会が今から楽しみだ。

箱根の面白さのポイントは見ると、それぞれの中にあると思うが、ざっと挙げると、2日間にわたる全10区間という規模の大きさ。1区間がハーフマラソンにあたる約20^キという長距離で、それを走る選手を10人そろえなければいけな

い厳しさ。箱根の山登り、山下りの5区、6区をはじめとする各区間の過酷さなどが思いつく。やはり、難しい競走だから面白いのだ。

そして特に近年は、テレビ中継でのショーアップと相まって、選手一人一人のストーリーが語られる。陸上競技に詳しくなくても、箱根駅伝だけは毎年熱を入れて最後まで観戦してしまうという人も多いことだろう。

一方で、その盛り上がりが過熱化という弊害を生んでいるのは今後の課題だ。

箱根に出場すると大学の知名度がぐっと上がるため、各大学は選手勧誘に力を入れる。前述した通り出場には数多くの走者が必要なので、可能性のある選手の勧誘合戦は激しくなる。そうして大学に入った多くの男子長距離選手が4年間、20^キのロードレースに特化した練習を行うことは、陸上界全

体にとってはいびつな構図と言わざるを得ない。

100回大会は全国の大学に予選の門戸が開かれたが、もともとは関東の大学しか出場できない大会であり、人気故に生まれる地域格差も無視できない。

箱根駅伝を全日本大学駅伝の関東予選と位置づけるなどの改革案は、無くはないが、箱根はいわば唯一無二の企画だけに、なかなか難しいだろう。ただ、全国からの参加を広げたり、スタートゴールを競技場としてパブリックビューイングを実施するなど、実現できそうなプランもある。

箱根駅伝という大イベントを財産として残し、陸上競技振興につなげていく。記念大会は、そんな新しい箱根像を思案しながら観戦してみたいかががでしようか。

（運動部編集委員兼論説委員・

和城 信行）